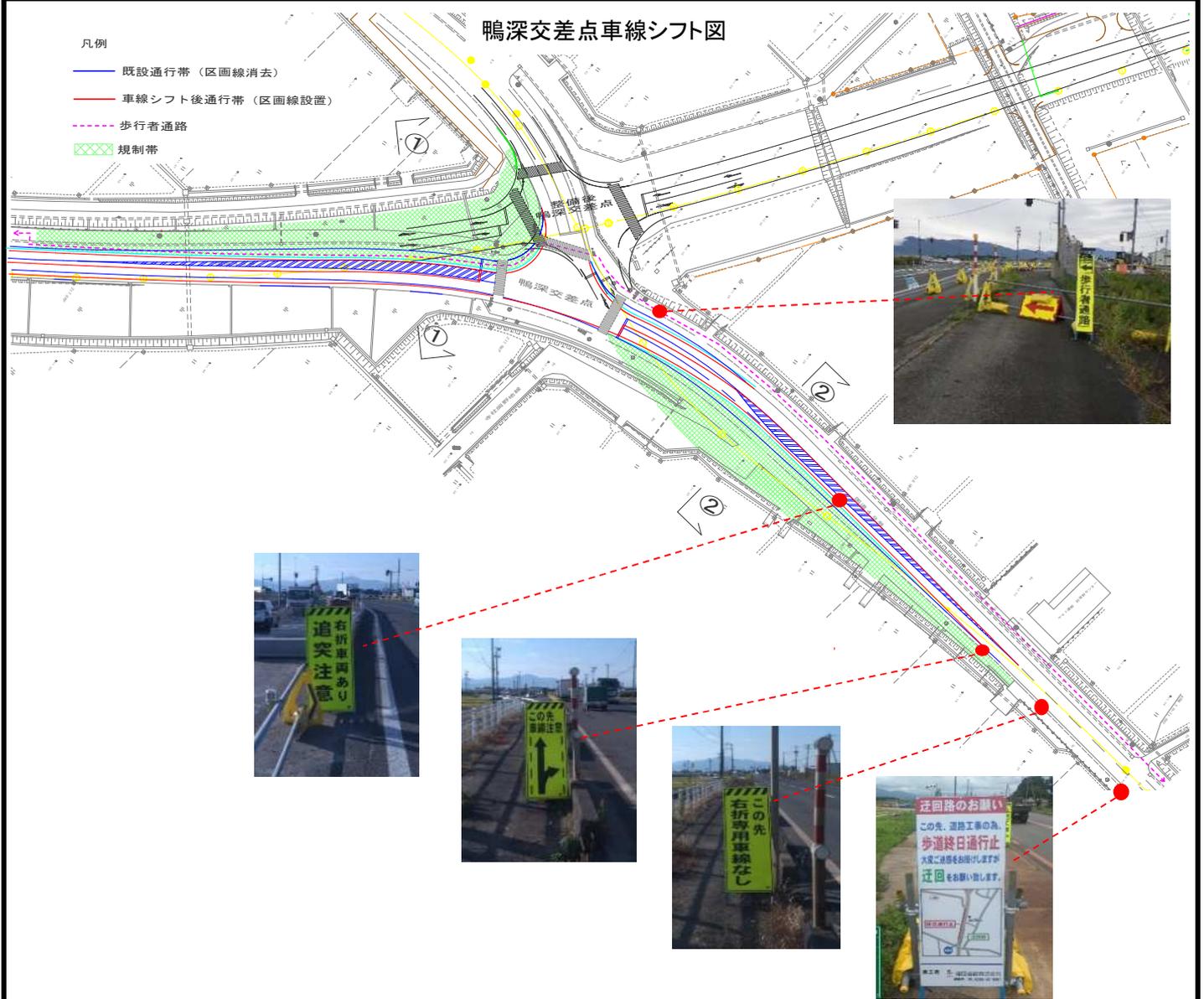


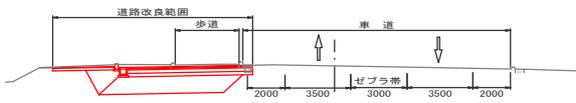
1	表題(課題)名	鴨深交差点改築における既存車線を生かした施工方法の検討	
2	工事(業務)名	阿賀野バイパス15工区舗装その4工事	
3	受注者名	福田道路株式会社 新潟本店	
4	工期	令和6年4月11日～令和7年8月31日	
5	担当技術者(立場)名	現場代理人	(とくなが ゆきひろ) 徳永 幸広
6	担当主任監督(調査)員	専門調査官	
7	課題区分名	⑤施工管理 ( )	
8	工事(業務)概要	鴨深交差点を含む阿賀野バイパスの舗装工事を行っている。	
9	【施工における 課題・問題点 等】		
	<p>本工事は令和7年内開通予定の阿賀野バイパス2.7Km区間における約600m間のアスファルト舗装工事である。当区間の起点部には現道供用している鴨深交差点があり、バイパス整備に伴い交差点形状や現国道49号の線形が変更となるが、地盤改良や道路構造物の施工を行うにあたり毎日片側交互通行等の道路規制を行うと交通誘導員の費用の増加、人員の確保、何より道路利用者の負担増による苦情の原因となり、工事の進捗に影響するため、道路規制を行わなくても作業ができるように施工スペースの確保が必要であった。</p> <p>一般国道49号 昼間12時間交通量(上下) 14,600台/12h</p>		
10	【実施内容】		
	<p>前項の課題・問題点を解消するために以下の対応を行った。</p> <p>① 既設の右折車線及びゼブラ帯を削減し、通行車線を作業帯と反対車線側にシフトすることにより作業帯や仮設歩行者通路の確保を図った。また、一般車両の逸脱や歩行者を防護するため、仮設ガードレールを設置した。</p> <p>② 右折車線を減少することにより右折待ちの車両への追突事故が懸念されたため、分かりやすい注意喚起案内看板を設置して道路利用者へ注意を促した。</p> <p>③ 地元住民や所轄警察署と協議し、改良区間の歩道を通行止めにし、反対車線の歩道への迂回を行っていただいた。</p>		
11	【実施結果】		
	<p>① 既設の区画線を消去し、供用車線を施工帯の反対車線へシフトすることで最大3.5mの作業空間の確保ができた。空間を広く使えることにより資機材の搬入や仮置き場、作業床などに活用できた。</p> <p>② 「この先右折専用車線なし」、「右折車両あり追突注意」などの注意喚起案内看板を配置し、右折する車両に対する追突防止を行い、交通事故0件を達成することができた。</p> <p>③ 地元自治会や所轄警察の了承のもと、地盤改良箇所の歩道通行止めを実施、歩行者の安全な通行を確保するとともに、工事の進捗が行えた。</p> <p>結果、規制帯内の工事日数累計90日間の内、片側交互通行25日間で65日間は規制なしで工事が行えた。毎日片側交互通行規制を行わずに工事が出来た為、道路利用者からの苦情もなく進捗することができた。</p>		

(様式—2)

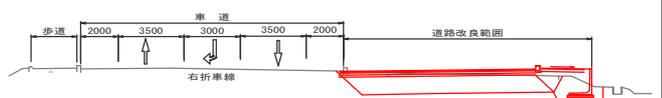
【実施内容等】



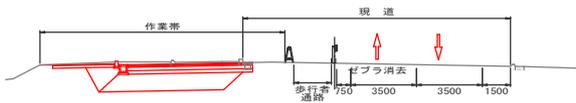
①-① 現況横断面図



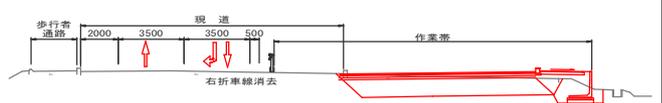
②-② 現況横断面図



①-① 車線シフト後横断面図



②-② 車線シフト後横断面図



既設区画線消去



区画線設置



仮設ガードレール設置

